教育の目的

平原　静志

教育とは何でしょうか？皆さんはそれぞれ教育についてご自分の考え方を持っておられるでしょう。それでは、まず、私が信仰しているバハイ信教の大先生でいらっしゃる、バハオラとアブドル・バハ、そしてショーギ・エフエンディがおっしゃっている教育についてのお話をご紹介しましょう。

1.　「人間は鋼のようであり、その真髄は隠されている。勧告と説明、適切な助言と教育を通して、その真髄は明るみに出されるであろう。しかしながら、もし人間が当初の状態のままに置かれたら、渇望と欲望の腐蝕が結果的に人間を破壊するであろう。」

（バハオラ：BE, p. 5）

2.　偉大なる御方は言われる——人間を、計り知れぬ価値のある宝石に富む鉱山と見なせ。教育のみが、その宝を発掘し、人類が声それから益を得られるようになすことができるのである。

（バハオラ：GL、pp. 259－260）

3.　「教育には、物質的教育、人間的教育、そして精神的教育の三種類がある。物質的教育とは、身体の健康維持、安楽、休息を得ることによって身体の進歩発達をはかることに関するものである。これは動物と人間に共通する。

「人間的教育は文明と進歩を意味する——すなわち、政府の行政機構、慈善事業、職業、技術や手工芸、科学、偉大な発明や発見、そして念入りに作り上げられた社会機構であり、これらは動物とは異なる、人間固有の活動なのである。

「神の教育は神の王国のものである。それは神々しい美徳を習得することである。これぞ真の教育である。なぜなら、この状態において人間は神の祝福の焦点となり、『我の形に、我に似せて人を造ろう』という言葉の顕現となるからである。これが、人類の世界の目標である。」

（アブドル・バハ：SAQ, p. 8）

4.　「今日、人々の考え方は非常に表面的になりがちである。そして、現行の教育制度は、成人した人に成熟した知性をもたらす能力に全く欠けているように見える。」

（ショーギ・エフエンディの代理から個人の信者への手紙より、
9/22／48：LG, p. 169）

それでは、教育の目的は何でしょうか。私の先生方がおっしゃられることをさらにご紹介しましょう。

5.　「知識は人間の生命の翼のようであり、人間の上昇のための梯子のようである。その習得は全ての者の義務である。しかしながら、言葉に始まり言葉に終わるような学問ではなく、地球の人々のためになるような学問の知識を習得すべきである。」

（バハオラ：TB, pp. 51－52）

6.　「科学や教養を習得することは、人類の最大の栄光であるが、これは、人間の川が巨大な海へと流れ、神の古来の源より霊感を得るという条件においてのみそうなのである。これが起こると、あらゆる教師は岸のない海となり、あらゆる生徒は知識の泉となる。知識の追求が、全ての知識の目的である御方の美へと通じるならば、その目標はなんと秀れているであろう。しかし、もしそうでなかったら、ほんの一滴が、人を、溢れる恩恵から切り離す原因にもなるであろう。なぜなら、学識が傲慢と自惚れをともない、それは過ちと神への無関心を引き起こすからである。」

（アブドル・バハ：SWAB, p. 110）

さて、次に教育の目的のためにどんな授業をしているか、私のクラスについてご紹介しましょう。現在、私は熊本市の南に隣接する御船町にあるデイスター・インターナショナルスクールで、中・高校生のクラスを担当しています。

学期始めに「なぜ学校が存在するのか」「教育の目的は何か」を必ず生徒にたずねます。そして「技量(skill) を自分の身につけ、それを人類社会に役立てるんだよ」と伝えます。

学校で学ぶ技量には次の三つがあります。

1) 何をするかの決定・決心をする技量
2) 目標を達成するために計画を立てる技量
3) その計画を成功させるために問題を解決する技量

例えば、スピード・タイピングのクラスを受けようと決心します。今、毎分 16 語だとすると、今学期中に 40 語タイプできるように計画を立てます。そして、速くタイプできるようにするにはどうしたらよいか工夫をするのです。そして、この技量を必ずどこかで役立てるようにします。

それでは、私が現在担当しているクラスについて紹介します。もともと私の専門は中高の数学と化学です。しかし、今回は世界史と生物の中の「環境」について話したいと思います。

「社会科」というのは自分達の社会とどうやって関わっていくかという技量を身につける教科です。ここで、アブドル・バハがおっしゃていることをご紹介します。

7.　「熟達の第一の属性とは、学問と、知性における教養学識である。そしてこの秀れた地位は、神に関する複雑で高遠なる真理、コーランの政治的、又、宗教的法律の根本的真理、他の信教の聖典の内容、そして、この著名な国の進歩と文明に貢献するような規則や方法についての徹底した知識を、個人が、己れ自身の内部に統合する時に達せられるのである。人はさらに、他の国々の政治体制を特徴づける法律や原則、習慣、状況や風習、そして物質的、又、道徳的美徳について知っておくべきで、又、現代の全ての役に立つ学問の分野に精通し、過ぎ去った政府や民族の歴史的記録について勉強すべきである。なぜなら、もし学識ある個人が、聖典や、神と自然の科学の全領域、宗教的法律学や政府の政策やその時代の様々な学問や歴史上の偉大な出来事について無知であったら、非常の場合に耐えることができないということになり得るであろうし、これは、包括的知識の必要条件とは矛盾しているからである。」

(アブドル・バハ：SDC, pp. 35－36 or UW, p. 69)

このことをよく頭に入れて「世界史」を次のようにして学んできました。

人類は最初森に住んでいたといわれ、食べ物は森で間に合っていました。そのうち人も増え森が少なくなって食べ物を探しに狩りに出なくてはならなくなりました。いつも獲物がとれるわけでもなく、やがて人は川のほとりで食べ物を作ることを習いました。だんだんと人が川の周りに集まってきて社会ができ、その社会を治める規則が必要になってきました。そしてその規則をもってその社会を統治する者が現われてきました。

この社会が大きくなると、衣・食・住に必要なさまざまな職業が生まれ、その技能を学ぶための教育が必要になってきました。

こうして世界のどこでも「統治する者」と「統治される者」からなる社会が生まれてきました。統治するために軍隊を設け、他の社会を侵略したり侵略されたりする度に、その費用のために税金の取立てが厳しくなりました。どこの社会も人口の 10%足らずの「統治する者」と 90%近くの「統治される者」との間で精神的にも物質的にも行き詰まってきました。

1649 年のイギリス・ピューリタン革命、議会制度の確立、さらに産業革命によって、古い社会構造が崩れていきました。1789 年のフランス革命、1868 年の日本の明治維新、1917 年のロシア革命、1930 年代に始まった中国革命と、世界の社会構造は新しいものに変わってきました。

「キリスト教文明と社会」「イスラム文明と社会」そして「実録第一次大戦」「実録第二次大戦」等のビデオを見て、生徒との質疑応答形式で授業を進めてきました。

ここで、新しい社会構造が必要だという認識と、世界の通信網の発達、一触即発の核兵器のため侵略戦争が考えられなくなって、何事も世界規模で考えなくてはならない時期だと認識して、バハオラのヴィジョン、バハイの行政機構の勉強に取り組んでいます。

「エコロジー」では、大気中にある1%の二酸化炭素が地球の周りを太陽の毛布のように包んで生物が生きられるような温度に保っていることを習っています。しかも、地球の面積の6%

を占める熱帯林がこの二酸化炭素によって生かされ、それが大気中の 80％近い酸素を地球上の生き物のために製造しています。世界的な工業化と熱帯林の伐採などの人為的な自然破壊のために、このバランスが崩れ、生き物が住みにくい環境を作っています。

さらに、メタンガスの発生によるオゾン層の破壊のために、生物の細胞を壊す紫外線が生物に害を与えています。

これを理解するために学校の近くにある二つの池の水質検査、二酸化炭素と酸素の量の検査と県指定の鳥獣保護区域の土質検査を、新設の熊本市立環境保護センターで体験しました。また、30 年前から懸案となっている県南部に建設予定の「川辺河ダム」建設問題と取り組むため、現地へ一日実習見学に行きました。

デイスター・スクールの中高校生は午前中はこのようなクラスがあります。午後は「決定、決心をする技量」「計画を立てる技量」「問題を解決する技量」を養うために先生方の監督、指導の下に生徒個人またはグループで決めた「プロジェクト」というクラスがあります。例えば、私の生徒二人は「ミュージック・プロジェクト」というのをやっています。一人はギター、もう一人はピアノが得意です。二人で何曲か目標を決めて作曲をしています。もちろん二人で作詞もします。まさに、「芸術は人生を楽しませ、情緒豊かにする」ということを実践しています。ギターの生徒は、毎朝、全校生徒と職員による「グループ・タイム」というプログラムでバハイの歌を歌うときに演奏をします。ピアノの生徒は、この ABS 大会の音楽を担当しています。他のもう一人の生徒は「Desk Top Publishing Project」というプロジェクトで、デイスター・スクールの生徒全員の学生証を作りました。

最後に、「教育の目的」に関する引用をいたします。この言葉に尽きると思います。

> 8.　「知識は人間の生命の翼のようであり、人間の上昇のための梯子のようである。その習得は全ての者の義務である。しかしながら、言葉に始まり言葉に終わるような学問ではなく、地球の人々のためになるような学問の知識を習得すべきである。」
>
> （バハオラ：TB、pp.51－52）